

問1 北条時宗が第8代執権を務めていた時代、モンゴル帝国（元）の日本侵攻に対する幕府の対応やその背景について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 執権として九州の御家人を動員し、異国警固番役を組織して海岸線の防衛を強化した
2. 執権として六波羅探題を新たに設置し、朝廷の監視とあわせて西国の防衛にあたらせた
3. 執権として御成敗式目を制定し、モンゴル帝国との戦いにおける武士の恩賞の基準を明確にした
4. 執権として日宋貿易を積極的に推進することで、モンゴル帝国を経済的に圧迫する政策をとった

問2 北条氏が執権として実権を握っていた鎌倉時代、農業技術の向上によって広まった、同じ田畑で米と麦を交互に生産する栽培方法と、当時用いられた肥料の組み合わせとして正しいものを選択してください。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 二毛作を行い、草や木を焼いた灰を肥料として利用した
2. 二毛作を行い、干し鰯や油かすを肥料として購入した
3. 三毛作を行い、家畜の糞尿を加工した堆肥を肥料とした
4. 輪作を行い、海外から輸入された化学肥料を利用した

問3 鎌倉時代に制定された「御成敗式目」において、諸国の守護の職務や土地の権利について定められた内容として正しいものはどれですか。当時の資料には、京都の警護や犯罪の取り締まりといった守護の役割や、土地支配に関する年限が記されていません。（2018年 沖縄公立入試 類似）

1. 守護の職務を限定し、武士が20年間土地を支配した場合はその権利を認めることとした。
2. 守護に徴税権を与え、武士が新しく開墾した土地は永久に私有できることとした。
3. 守護に城の修理を報告させ、武士が他家と婚姻を結ぶ際は幕府の許可を必要とした。
4. 守護の世襲を禁止し、武士が土地を失った場合は幕府がその全額を補填することとした。

問4 13世紀後半に起きたモンゴル帝国の襲来（元寇）において、武士たちは防衛に成功しましたが、その後の鎌倉幕府の支配体制は大きく揺らぐことになりました。その理由として最も適切な説明はどれか、次の中から選びなさい。（2025年 山口公立入試 類似）

1. 外国との防衛戦であったため、新たに恩賞として与える土地が不足し、軍役を果たした御家人の不満が高まったから。
2. 元軍の圧倒的な武力の前に、鎌倉幕府が降伏に近い和睦を結び、多額の賠償金を支払ったから。
3. 元寇の混乱に乗じて後醍醐天皇が建武の新政を開始し、幕府から政治の実権を直ちに取り戻したから。
4. 防衛のために西国へ赴いた武士たちが、その土地の有力な農民と結びついて、幕府から独立したから。

問5 「蒙古襲来絵詞」という絵巻物には、武士の竹崎季長が元軍を相手に奮戦する様子や、恩賞を求めて幕府に直訴する場面が描かれています。元寇を境に、御家人の生活が困窮し、社会が不安定化した背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 島根公立入試 類似）

1. 戦費の自己負担に加え、当時の分割相続の慣習によって一人あたりの所領が細分化し、経済基盤が弱まっていたため
2. 幕府が御家人に対して農業を禁止し、元軍との継続的な戦いに備えて軍事訓練のみに専念するよう命じたため
3. 元軍による長期間の占領の結果、博多を中心とする九州の主要な農地がすべて元の直轄領として奪われたため
4. 幕府が貨幣経済を否定して物々交換を強制したため、武士が戦費を調達するために領地を安値で売却したため

問6 中世の東アジア情勢を記した歴史的な記録において、日本への外国からの侵攻である「元寇」が引き起こされた背景として、当時のモンゴル帝国の動向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）

1. 産業革命による工業製品の輸出先を確保するため、アジア全域の市場を独占しようとした。
2. シベリア鉄道を敷設するための労働力を確保するため、周辺の国々を支配下に置こうとした。
3. 周辺の国を次々と服属させて領域を拡大していった一環として、日本にも服属を求めた。
4. 唐の時代の優れた政治制度を復活させるため、東アジア諸国に律令制の導入を強制した。

問7 1297年に鎌倉幕府が、土地の売買を禁止し、すでに売却された土地を本来の持ち主に無償で返却させるという内容の法令を出しました。元寇後の生活苦に陥った御家人を救済するために出されたこの法令の名称を答えなさい。（2023年 和歌山公立入試 類似）

1. 永仁の徳政令
2. 公事方御定書
3. 武家諸法度
4. 慶安の御触書

問8 鎌倉幕府における「将軍と御家人の関係」を模式図で表すと、御家人から将軍に向かう矢印として「奉公」という言葉が示されます。この「奉公」の具体的な内容として説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）

1. 戦時には命をかけて軍役を果たし、平時には京都や鎌倉の警備などの番役を務めること
2. 先祖伝来の領地の支配権を認められていたり、手柄に応じて新たな土地を与えられたりすること
3. 地方の政治を監視するために全国の国ごとに配置され、軍事・警察の権限を行使すること
4. 荘園や公領の管理を任せられ、農民から年貢を取り立てて幕府や領主に納めること

答え合わせ・解説

問1	答え 1 執権として九州の御家人を動員し、異国警固番役を組織して海岸線の防衛を強化した	フビライ・ハン率いるモンゴル帝国（元）の脅威に対し、北条時宗は執権として強力なリーダーシップを発揮しました。御家人に対して九州沿岸の警備を義務付ける「異国警固番役」を課し、さらに博多湾沿岸に「石築地（防塁）」を築かせるなど、軍事的な防衛体制を整えることで元寇に立ち向かいました。
問2	答え 1 二毛作を行い、草や木を焼いた灰を肥料として利用した	鎌倉時代には農業生産力を高める工夫が進み、1年の間に同じ土地で米と麦を交互に作る「二毛作」が西日本を中心に広まりました。また、肥料として草木を焼いた「草木灰（そうもくはい）」や、刈り取った草を地中に埋めて腐らせた「刈敷（かりしき）」などが使われるようになったことで、収穫量が増大しました。
問3	答え 1 守護の職務を限定し、武士が20年間土地を支配した場合はその権利を認めることとした。	御成敗式目では、守護の権限が大きくなりすぎるのを防ぐため、職務を「大番催促（京都の警護）」や殺害人・夜討などの取り締まりに限定しました。また、土地争いを早期に解決するため、20年間実効支配（知行）している土地については、書類がなくても権利を認めるという「二十箇年の知行」の規定を設け、武士社会の安定を図りました。
問4	答え 1 外国との防衛戦であったため、新たに恩賞として与える土地が不足し、軍役を果たした御家人の不満が高まったから。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証する「御恩」と、武士が軍役を果たす「奉公」の交換で成り立っていました。しかし、元寇は侵略を防ぐ防衛戦争であり、勝利しても敵から奪った土地がなかったため、幕府は命がけで戦った武士（御家人）に十分な恩賞を与えることができませんでした。これにより武士たちは困窮し、幕府への不信感を強め、後の幕府滅亡の遠因となりました。承久の乱や建武の新政は時期や背景が異なる出来事です。
問5	答え 1 戦費の自己負担に加え、当時の分割相続の慣習によって一人あたりの所領が細分化し、経済基盤が弱まっていたため	元寇以前から、武士の間では所領を子や親族に分けて継がせる「分割相続」が行われており、世代が進むにつれて個々の武士の領地は狭くなっていました。そこに元寇の軍役負担が重なり、さらに期待していた恩賞も得られなかったため、多くの御家人が借金を抱えて生活に困窮しました。幕府はこれに対し、御家人の売却した領地を無償で取り戻させる「永仁の徳政令」などを出しましたが、かえって経済を混乱させる結果となりました。
問6	答え 3 周辺の国を次々と服属させて領域を拡大していった一環として、日本にも服属を求めた。	モンゴル帝国は周辺諸国に次々と使者を送り、服属（自国の支配下に入ることを）を迫ることで急速に領域を拡大させていきました。当時の日本の鎌倉幕府がこの要求を拒否したことが、大規模な武力衝突へとつながりました。選択肢にある産業革命やシベリア鉄道は、より後世の出来事であるため、時代背景が異なります。
問7	答え 1 永仁の徳政令	元寇（蒙古襲来）の際に、恩賞が十分に与えられなかったことで困窮した御家人を助けるために発布されました。しかし、この法令により金銭の貸し借りが滞り、かえって御家人の生活が不安定になったほか、幕府の権威が低下する一因となりました。
問8	答え 1 戦時には命をかけて軍役を果たし、平時には京都や鎌倉の警備などの番役を務めること	奉公の具体的な内容は、軍事的な貢献と警備の義務に大別されます。「いざ鎌倉」と言われるように、戦時には軍勢を率いて駆けつける「軍役」が課せられました。また、平時には「京都番役」や「鎌倉番役」として、重要拠点の警備（番役）を担当しました。一方、土地の支配を認めるなどの行為は将軍から御家人への「御恩」にあたります。